

学習日 月 日

年 組 番 氏名

1 下の表は、A市のある日の最高気温、最低気温と、前日の気温を基準としたときの差を表したものです。

最高気温	6℃ (前日との差 -1℃)
最低気温	-7℃ (前日との差 +4℃)

この日の最高気温は6℃で、前日との差が-1℃であるので、前日の最高気温は7℃であったことがわかります。

次の各問に答えなさい。

(1) この日の最高気温と最低気温の差を求めなさい。

答

(2) 前日の最低気温を求めなさい。

答

2 下の表は、あるそば屋さんの1日の売上数を、100杯を基準にして記録したものです。次の各問に答えなさい。

曜日	月	火	水	木	金	土
売上数 (杯)	+10	-7	-11	0	+25	+19

(1) 火曜日の売上数を求めなさい。

答

(2) このそば屋さんの月曜日から土曜日までの総売上数を求めなさい。

答

(3) このそば屋さんの1日の売上数の平均を求めなさい。

答

3 次のことについて、どのように計算すればよいですか。正負の数を用いて説明しなさい。

身長が159cm, 166cm, 157cm, 163cm, 155cmの5人の身長は平均は160cmである。

説明

4 次の文には誤りがあります。なぜ誤りなのか具体例をあげながらことばで理由を答えなさい。

(1) 正の数にどのような数を加えても、和は正の数になる。

理由

(2) 0でないどのような数に負の数をかけても、積はもとの数より小さくなる。

理由

5 身近な問題で、正負の数の計算を利用すると効率よく考えることができる問題を書きなさい。

1(1) 13°C ※ $6 - (-7) = 13$

(2) -11°C ※ $-7 - (+4) = -11$

2(1) 93杯 ※ $100 - 7 = 93$

(2) 636杯 ※ $10 - 7 - 11 + 25 + 19 = 36$ $100 \times 6 + 36 = 636$

(3) 106杯 ※ $636 \div 6 = 106$ (別解) $36 \div 6 = 6$ $100 + 6 = 106$

3 (解答例) 160cmを基準にして正負の数を用いて表すと, -1cm , $+6\text{cm}$, -3cm , $+3\text{cm}$, -5cm となる。

5人の平均は $(-1 + 6 - 3 + 3 - 5) \div 5 = 0$

したがって, 5人の身長平均は, 基準にした160cmになる。

4(1) (解答例) $(+3) + (-5) = -2$ のように, 絶対値がもとの正の数より大きい負の数を加えると, 和が負の数になるから, 誤りである。

(2) (解答例) $(-3) \times (-5) = 15$ のように, 負の数に負の数をかけると積が正の数となり, もとの数よりも大きくなるから, 誤りである。

5 (解答例)

・ 日本を基準にして日本との時差を表すと, ロンドンが -9 時間, ニューヨークが -14 時間である。
ロンドンを基準にすると, 日本とニューヨークの時差はどのように表せるか。

・ 次の6人の身長平均を求めなさい。

151cm, 163cm, 156cm, 149cm, 155cm, 153cm

・ 今日の最低気温について, 盛岡が -2°C , 東京が 15°C であるとき, 盛岡と東京の最低気温の差を求めなさい。